

常任委員会視察報告書

委員会名	教育福祉常任委員会 (吉岡委員長、前川副委員長、後藤委員、志田委員、井上委員、納所委員)
視察先 調査事項 など	<u>助産院・産後ケアセンターについて</u> 7月5日(金) 13時30分～14時10分 視察先：バースホーム湘南鎌倉 説明者：施設長
視察先 概況	<u>バースホーム湘南鎌倉の概況</u> 「バースホーム湘南鎌倉」(鎌倉市山崎 1090 番地 5) は、平成 28 年(2016 年)に分娩・産後ケア施設として開設した「湘南鎌倉バースクリニック」の閉院後、産後ケアを残す形で令和 6 年(2024 年)4 月 1 日に新たに開設した施設で、出産したお母さんと赤ちゃんについて、心身のケアや育児サポートを行い、産後も安心して子育てができるように支援することを目的としています。 【特徴】 <ul style="list-style-type: none">・生後 4 か月までの赤ちゃんとお母さんが宿泊できる。・24 時間助産師がおり、育児相談、授乳ケア、授乳相談が行える。・宿泊室は全室個室のため、周囲を気にせず過ごすことができる。・行政が支援する産後ケア事業を利用することができる。
吉岡 和江 委員長 所 感	教育福祉常任委員会として視察しました。出産機能は閉鎖され、その施設を使って産後 5 か月未満の赤ちゃんと家族のための産後ケア施設として 4 月にオープンしました。 核家族化が進み、赤ちゃんを見たことがないお父さんお母さんが増えているとのこと。おむつの宣伝でおしっこの色がブルーでないと悩んでいるお母さんの話はかなり前に聞いてびっくりしたことがあります。 何世代も一緒に過ごしていた時代は生き死にも当たり前の日常でしたが、今はそれがなくなり、行政等が子育て世代に寄り添った対応が必要になっています。 産前産後の親たちへの様々なサービスが必要です。お風呂の入れ方、子どもがどのように成長していくのか。どう接したらよいのか等々。 赤ちゃんの夜泣きで苦しんでいる、ミルク、母乳を飲まない、どう接したらいいのか。特にお母さんたちは産後体がもとに戻らない状態の中で、赤ちゃんと暮らしていく。 ゆっくり休める環境が大事です。宿泊、日帰り、訪問等、専門家のアドバイス、赤ちゃんを通してのお父さんお母さん同士の交流など実施しています。 自治体の補助もあり、鎌倉市民の自己負担は 1 泊 6,000 円でゆっくり休養、育児相談など行っているとのこと。 近隣の自治体の産後ケア事業と連携。鎌倉市はもちろん、逗子、藤沢、葉山、茅ヶ崎、寒川と連携しています。 多くの赤ちゃんのご家族がゆったりと過ごし、その後の子育てがより良いものになるよう願って視察から戻りました。

<p>前川 綾子 副委員長 所 感</p>	<p>2016年に開設された「湘南鎌倉バースクリニック」は、産後ケアの部分を残して、今年、令和6年（2024年）4月に「湘南鎌倉助産院・産後ケアセンター バースホーム湘南鎌倉」として生まれ変わりました。</p> <p>この施設の一階の広い部屋を活用して、毎週木曜日に「育児サロン」を開かれており、子育て中の父親、母親達が生後1か月から1歳未満の赤ちゃんとともに集まり、お母さん同士の情報交換や交流を深める場となっているということです。助産師も同席することもあり、育児相談も同時に行うことができるということで、一つの子育て支援の役割を果たしています。</p> <p>お母さんと赤ちゃんだけでなく、家族で宿泊することができる部屋など全室個室で配置され、またお母さん同士が交流できるランチ会を開くことができるランチルームや沐浴室などもあり、生後5か月未満の赤ちゃんに家族に優しく寄り添う産後ケア施設と感じました。</p> <p>鎌倉市以外、藤沢市・逗子市・葉山町・茅ヶ崎市・寒川町など6市町と提携しているということですが、近年産後ケアは需要が高まる一方ですので、今後この施設が益々拡充されていくことを期待します。</p> <p>子育て応援の心強い施設が鎌倉市内に開設されたことに、心から感謝しています。</p>
<p>後藤 吾郎 委員 所 感</p>	<p>令和5年9月の定例会において私自身、産後ケア関連について一般質問をしました。質問内容は「孤独をどう防ぐか」と題して産後ケア対象者を取り上げたものでした。当時は湘南鎌倉バースクリニックと呼ばれ、分娩と産後ケアを兼ねていましたが経営上の問題から施設が閉院予定となり、市民から存続希望の話が出たことを鮮明に覚えています。</p> <p>今回この施設が「バースホーム湘南鎌倉」として令和6年4月にリニューアルオープンしたので見学させて頂きました。</p> <p>本施設では分娩は本院に任せ産後ケア（特に周産期ケア）に特化しています。多様化する時代の中で色んな出産・育児の形が出てきている中、多くのニーズに対応出来るよう多様な個室（和室・洋室・大きさなど）や同じ境遇の人が集えるロビーなどのスペース、気軽に助産師を始めとする専門家に声をかけられる環境と素晴らしいものでした。また、松本施設長の話では地域の方々との交流も図っていききたいとのこと。赤ちゃんを親や専門家だけでなく、地域も含めて見守り・育てるというそのビジョンに感銘を受けました。</p> <p>我々議員も含めて本市にはこのような施設があることを広く伝えていく必要があるし、産後ケアの分野が更に発展・理解される様に市内外の似たような施設との連携含めて共に成長してゆく事が必要なのだと改めて感じた視察となりました。</p>

<p>志田 一宏 委員 所感</p>	<p>湘南鎌倉助産院・産後ケアセンター、バースホーム湘南鎌倉を視察した。</p> <p>同施設は、鎌倉市、藤沢市、逗子市、葉山町、茅ヶ崎市、寒川町の6市町の行政と産後ケア事業を提携し、生後5か月未満の赤ちゃんを対象に宿泊、訪問、日帰りニーズに合わせて産後ケアを実施している。神奈川県内の市町村では、この宿泊、訪問、日帰り全ての項目を実施している市町村は14市町村だけである。</p> <p>バースホーム湘南鎌倉では、ひと月に約130件対応しているとのことである。</p> <p>少子化の時代に、子供を産み育てることを選択した家族が子育てを通じてより良い人生を送ることができるよう、助産師による24時間サポートで育児相談、授乳相談、さまざまなケア、そして、赤ちゃんを通じて母親と父親同士が交流を深められる育児サロンを毎週木曜日に開催している。私も2児の父親であるが、第一子が5か月の頃は仕事で忙しく妻に子育てを任せていた。</p> <p>妻の姉妹や友人が子育てを経験していて、義理の母も近くに住んでいたので産後ケア施設を使用することはなかったが、助けが近くにない家族にとっては、とても重要な施設であると感じた。この施設で学んだ子育てや、固定的性別役割分担意識から脱却を図り、母親として父親として産まれてきた子の幸せを第一に考えられる家族となることを切に願っている。</p>
<p>井上 三華子 委員 所感</p>	<p>分娩、産後ケア施設の湘南鎌倉バースクリニックが、産後ケアを残すかたちで「湘南鎌倉助産院・産後ケアセンター（バースホーム湘南鎌倉）」として2024年4月1日に新たにリニューアルし、7月5日に教育福祉委員会で視察に伺いました。妊娠中から産後まで、育児期間を「また乗り越えられそう」と思えるような、気軽に相談できリフレッシュできる「もうひとつの家」のように利用できる場所とのことでした。</p> <p>当施設は、生後4ヶ月までの母子が産後ケア事業等を利用し、心身のケアや育児のサポートを行い産後も安心して子育てができるように支援することを目的としています。6市町村（鎌倉・藤沢・逗子・葉山・茅ヶ崎・寒川）と連携しており、例えば鎌倉市民は1泊2日一般6万円のところ、1万2000円で利用できる助成があります。</p> <p>施設の特徴としては、助産師による育児相談・授乳相談・授乳ケアの24時間サポート、宿泊・訪問・日帰りサービス、育児サロンやランチ会の開催など多岐に渡り、周産期ケアの新しい体制として地域の周産期医療を支えます。</p> <p>市町により助成の対象年齢、費用や内容も異なることでの人材配置などの事業者の負担、人材不足などの課題があると思いますが、地域との連携や助産師と一緒に寄り添える場所として子育てに悩む方達にとってとても重要な応援施設であると思いました。</p> <p>教室やイベント開催などで広く周知し、孤立させない子育ての実現に期待します。</p>

納所 輝次
委 員
所 感

湘南鎌倉バースクリニックで取り扱ってきた出産事業が本院の湘南鎌倉総合病院に統合されたことから 2024 年 4 月から湘南鎌倉助産院・産後ケアセンター、バースホーム湘南鎌倉として周産期ケアの新しい体制が始まったことから施設見学と説明をお願いできるというよい機会に恵まれた。

鎌倉市の産後ケア事業を支える拠点としても大きな期待が寄せられる。

核家族化が進んでいる中で、孤立しやすい母子や家族をサポートする産後ケアのあり方も多様化に対応して、日帰り、宿泊サポートに加え訪問事業も実施しており、助産師による相談体制が整えられていた。特に宿泊には十分に整えられた環境が用意されていた。

本院での出産に限らず、他施設で出産しても本施設の利用が可能で、鎌倉市を中心に逗子市、葉山町、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町の実施する産後ケア事業に対応しているという。

また毎週木曜日の午前中に無料で育児サロンが開催され、出産・育児の経験を共有しあえる場を提供しており、毎週 15 組ほどの親子が参加しているという。このサロンは子どもが動き始める前までが対象ということだが、動き始めてから先の子育て支援事業にスムーズにつながられるよう、行政との連携を密にしてもらうことで、その先の子育て環境も充実するよう期待したい。